

# 黒坂納涼まつり

## 心温まる手作りの盆祭り

息ピッタリ！  
黒坂小学校児童の傘踊り



8月15日、恒例の黒坂納涼まつりが開かれ、帰省者や親子連れ、地元の人など多くの人でにぎわいました。会場では、黒坂小学校児童による傘踊りや、日野高校郷土芸能部による荒神神楽のほか、陸上自衛隊によるがいな万灯も披露され、会場を沸かせました。祭りの最後には300発の花火も打ち上げられたほか、来場者全員による踊り、空くじなしの抽選会も行われ、地域のきずなを一層深める一日となりました。



天井まで届きそう!?  
見事な万灯さばきに  
目が離せません



日野高校郷土芸能部が  
魅せる絢爛豪華な舞



黒坂鏡山城下を知ろう会による城址のライトアップも



左から、木山賢一さん、James Seol さん（ヘンリー役）、Hansel Tan さん（チャーリー役）、「四人書生」を翻訳し英語版を出版したフレデリック・L・ショットさん、Phil Wong さん（フランク役）、Sean Fenton さん（フレッド役）、木山章子さん

「漫画」を飛び出し  
歌い踊る四人の書生たち  
「漫画四人書生」がアメリカでミュージカルに



日野町根雨出身の洋画家・漫画家、木山義喬（1885〜1951年）が1927（昭和2）年に描いた「漫画四人書生」が、義喬が移住していたアメリカで「THE FOUR IMMIGRANTS An American Musical Manga」としてミュージカル化され、7月から

8月にかけて、カリフォルニア州パロアルトのルーシー・スターン劇場で上演されました。これは、「漫画四人書生」に感銘を受けた劇作家のミン・カーンさんが原作を基に書き下ろした新作。義喬自身モデルのヘンリーから四人の主人公が、20世紀初めのサンフランシスコに移住し、その悲喜こももがユーモアたっぷりに描かれ、ミュージカルならではの歌や踊りもふんだんに盛り込まれた楽しい舞台で連日満員だったとか。

これは、「漫画四人書生」に感銘を受けた劇作家のミン・カーンさんが原作を基に書き下ろした新作。義喬自身モデルのヘンリーから四人の主人公が、20

7月21日には、義喬の孫の木山章子さん・賢一さん夫妻（根雨）も渡米して観劇。終演後、出演者らと面会しました。

章子さんは、「とても素晴らしい舞台。観客も総立ちで拍手していました。出演者の皆さんも気さくな方ばかり。劇中に登場する、オウムを飼っていた鳥かごは、今も根雨の家にありますよと伝えましたら涙を流して感激されていました。一回しか観劇していないので物語を追うのに必死でしたから、できるなら違う視点でもう一度観てみたい」と話していました。



牛のことなら何でも分かるんです

日野高校・西村寛也ともやさんが家畜審査で最優秀賞



笑顔を見せる西村さん

7月5日に開かれた、家畜審査競技会（鳥取県学校農業クラブ連盟主催）で、日野高校3年の西村寛也さんが、肉牛の部で最優秀賞を収めました。

同競技は、黒毛和種審査基準に基づいて、個体やひづめの形などについて優劣や点数を決めるもの。日野高校では現在、家畜を飼育していないものの、西村さんは町内の和牛生産者に実際に牛を見せてもらおうなどして技術を磨いてきました。

西村さんは「県内の強豪校に勝てうれしい。結果が出せてよかった」と笑顔を見せていました。

勇壮な太鼓の鼓動に心揺さぶられる

舞太鼓あすか組日野町公演



熱気、情熱あふれる演舞で会場を魅了

世界でも活躍する和太鼓集団「舞太鼓あすか組・ASKA Japan ese Drum」の公演が、8月20日、山村開発センターで行われました。

あすか組は、第10回日野町民ミュージカルに出演したこともある和太鼓集団。会場を圧倒するパフォーマンスが魅力です。

当日は満員となった会場に、あすか組のメンバーが迫力ある和太鼓の演舞を披露。大小さまざまな和太鼓を自在に操る姿に大きな拍手と歓声を送られていました。

日野の魅力を満喫

独スポーツ少年団がやってきた



初めてのラフティングに笑顔はじける

7月26日、ドイツのスポーツ少年団10人が日野町を訪れ、ラフティングやそば打ち体験を行いました。

これは、日本とドイツのスポーツ少年団が交流を通し、友好を深めることを目的としたもので、今年で44回を迎えます。

当日は、日野高生5人も参加。そば道場たたらやの安達幸博さん（根雨）の指導の下、仲良くそば打ち体験をする様子が見られました。

また、ラフティング体験では、ラフト（ゴムボート）から川に飛び込んだり、笑顔で大きな歓声を上げたりと、日野川の自然を堪能しました。

笑い仕掛けのミステリーにようこそ

お芝居くらぶさん・ふいーるど夏公演



レトロな雰囲気謎解きはいかが？

町内で活動している劇団、お芝居くらぶさん・ふいーるど夏公演「続・大正浪漫狂騒曲」が、8月26日と27日の2回、町文化センター・ホール森の音楽隊で上演されました。

今回は、大正時代の日本を舞台にした、笑いとサスペンスを交えた物語の続編。大正時代を思わせる舞台上の衣装や小道具などで会場もその時代にタイムスリップしたかのように。息の合った出演者の掛け合いに会場からは大きな拍手と笑い声が響いていました。